

ビワ生育情報

第 8 報
千葉県農林水産部
令和 2 年 5 月号

5月1日時点での幼果の横径は「楠」、「大房」、「田中」とも平年並みで、縦径は3品種とも平年よりやや大きく生育は順調である。着果状況は平年よりやや少ない。

令和2年4月の気象

令和2年4月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1半旬は平年よりも高く、それ以外は平年よりも低く推移した。月平均気温は13.3℃で、平年より0.6℃低く、前年より0.2℃高かった。

降水量は第1、3及び第4半旬は平年より多く、他はまとまった降雨はなかった。月合計は199mmで平年の114%、去年の93%であった。

日照時間は第4半旬は平年と同程度で、他は平年より多かった。月合計は230時間で平年の134%、前年の116%であった。

表1 令和2年4月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	13.6	11.7	9.6	49	28	0	33	27	54
2	12.4	13.1	11.7	0	26	70	52	28	35
3	11.4	13.5	11.1	56	27	65	33	28	30
4	13.3	14.2	15.0	95	37	2	27	28	40
5	13.5	15.0	18.5	0	36	14	41	30	29
6	15.5	15.7	12.7	0	20	64	45	31	12
平均/計	13.3	13.9	13.1	199	174	214	230	172	199

6月の作業

例年であれば6月前半には梅雨に入り曇雨天の日が多くなる。5月に引き続き収穫が行われ、晩生の「田中」でも6月中下旬には終了する見込みである。市場において他産地との競合が激しくなっているため、品質の良い適熟果を出荷し、市場や消費者の信頼を得るよう心がけたい。

夏肥（礼肥）は、収穫後の樹勢をすみやかに回復させるために、適期に施用する。

台木の播種は、梅雨明け前に発芽させるように、早めに行うことが肝要である。

夏肥の施用

夏肥は樹勢の回復及び夏枝の伸長と花芽分化を促すために必要である。収穫直後に速効性肥料を用いる。10a当たりの施肥量（成分量）は、耕土の浅い園で窒素5kg、りん酸4kg、加里4kg、耕土の深い園でそれぞれ5kg、3kg、3kgを目安とする。

果実の発育

5月1日現在のビワの果径を表2に示した。横径は「楠」が2.92cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ2.94cm、2.68cmで3品種とも平年並であった。生育が早かった前年と比べると、3品種共に84～88%と小さかった。

縦径は「楠」が3.24cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ3.05cm、3.08cmで、3品種とも平年よりやや大きかった。また、生育が早かった前年と比べると、3品種とも83～85%と小さかった。

果形指数は「楠」が0.90、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.96、0.87であった。本年の果形指数は「大房」は平年と同程度であり、「楠」及び「田中」は平年より小さく縦長傾向であった。

果実の発育は、4月1日時点では平年よりやや小さかったが、4月の降水量及び日照時間が多かった影響により、5月1日時点では平年より大きくなった。気象庁によると、向こう1か月の気温は高く推移することが予想されており、収穫期は平年よりやや早いと予想される（各品種の平年値は前年の7月号を参照）。十分に肥大する前に着色が始まる場合もあるので、収穫適期を逃さないよう注意が必要である。

本年は、寒害を被った幼果が多く着果量は平年よりやや少ない。病害虫ではクワゴマダラヒトリの発生及び果実の被害が平年よりやや多い。果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市ほか県南地域で小発生年と同様の傾向を示したが、チャバネアオカメムシの発生は中発生と予測されているので、カメムシの発生の多い園では、今後の発生予察情報を参考に、ビワ園への飛来に注意を要し、薬剤防除に取り組む。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

表2 果実の発育（5月1日の果径）

品種	調査地点	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	2.92	2.94	3.31	3.24	3.15	3.89	0.90	0.93	0.85
	青木	2.87	3.01	3.42	2.96	3.09	3.49	0.97	0.97	0.98
大房	南無谷	2.93	3.02	3.42	3.03	3.08	3.54	0.97	0.98	0.96
	暖地園研	3.01	2.84	3.46	3.17	2.95	3.75	0.95	0.96	0.92
	平均	2.94	2.94	3.43	3.05	3.03	3.60	0.96	0.97	0.95
田中	青木	2.69	2.74	3.19	2.93	3.02	3.38	0.92	0.91	0.94
	南無谷	2.74	2.68	3.13	3.27	2.97	3.69	0.84	0.91	0.85
	暖地園研	2.60	2.70	3.22	3.02	2.94	3.79	0.86	0.92	0.85
	平均	2.68	2.70	3.18	3.08	2.96	3.62	0.87	0.91	0.88

果形指数：横径／縦径

平年：平成2年～令和元年の30年間の平均。

南無谷は平成10年～令和元年の22年間の平均。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>